様式２

令和５年度　自己評価及び学校関係者評価書

秋田市立御所野学院高等学校

１　本年度の学校評価をふりかえって

　完全な連携型中高一貫教育校としてスタートして２年目を迎えた。御所野学院中学校からの内部進学者と、学院中以外から進学してくる生徒の学校生活状況を見極め、改善事項を明確にするとともに、得られた「課題」を教職員・保護者・学校関係者で共有することに重点を置いた。また、生徒や保護者に行ったアンケートを参考にして一年間の活動について検証し、学校関係者の方々から助言をいただいて具体的な改善策を策定した。
　なお、アンケートは項目を年度当初にあげた次の４点を焦点化したものであり、評価することで御所野学院高等学校がよりよい学びの場となるよう実施した。

【学校経営の重点事項】
（１）御所野学院教育の充実　（２）豊かな心と主体性の育成　（３）学力の向上　（４）進路の充実

２　評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育課程・学習指導・研修	学校経営の重点を踏まえた指導や取組の推進	年度当初に計画した年間学習指導計画に従いながら概ね計画どおりに指導を進めていくことができた。新学習指導要領は２年目となるが、以前と異なる評価方法に苦慮しながらも適切に学習評価を行うことができた。	B	評価方法について、今後も検討を続け、よりよい評価方法の完成に努める。また、次年度は全学年が新学習指導要領となるため教育課程編成についても検討を重ねていきたい。	本校独自の「個別最適な学び」や「協働的な学び」について教職員でアイディアを共有し、実践することで大きな改善が期待できる。
	生徒の思考力を高める主体的協働的な授業の推進	タブレット端末の教師、生徒への配付により、協働的な授業の進行が容易になった。特に、郷土学の発表準備では効果が現れていると思われる。今後は継続的・汎用的なＩＣＴ機器使用を進めていきたい。	B	ＩＣＴ機器を使用した学習効果の検証や、教科内および全校で活用情報を共有するなど、授業改善に向けて研修を充実させていきたい。	ＩＣＴの利活用について、教職員・生徒ともに今後困らない程度のスキルを身に付けておくことは必須である。学習効果、学習の効率化、業務改善が図られるようスキルアップを図ることを期待する。
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	年間計画に基づき「学校生活意識調査」「携帯・スマートフォン講習会」を実施している。ＳＮＳ等の最新の話題を提供し利用を見直させたり、生徒のわずかな変化を見逃さないよう努めている。しかし、「いじめ」問題は、予想を超えて発生している現状である。	B	いじめ未然防止教育の早期実施や積極的ないじめ行為の認知に努め、早急な対応を行う。生徒の微妙な変化への気づきや多様性を認め合う集団作りを学校生活・授業の中で育んでいく。	いじめ問題については「分かる」授業の実施に加えて、全職員が情報を共有し、未然防止と早期対応につなげることが最も大切である。
	教育目標に基づいた計画性のある指導の推進	年度当初に作成した経営計画に従い、計画的に業務を実践できた。学校評価では、生徒・保護者共に「学校ルールはおおむね妥当であり、生徒や保護者等に理解されている」の評価は「よい」は増えているが「不十分」も前年度より増えている。	B	「生活の心得」についてより具体的に生徒の意見を汲み上げながらより良いルール作りをしていく。４月当初、生徒へ「生活の心得」を配布していたが、保護者宛に配布することで、家庭との連携を図っていく。	「生活の心得」など、学校生活を送るうえで必要なルールについては保護者の理解もとても大切である。どのような指導環境やルールのもとで学校生活しているかを知らせることで保護者の理解が深まる。
	生徒理解の推進と事故の未然防止の徹底	問題行動未然防止に努めているものの、新１年生の情報収集、特に御所野学院中学校との生徒指導上の情報共有が十分ではない。	B	高等学校の新１年部と御所野学院中学校の３年主任とで新年度が始まる前の３月下旬頃に、情報共有を図り生徒の指導に役立てることを計画していきたい。	新入生の情報を共有するなど、引き続き中高の連携を更に密にしていくことが望ましい。
家庭・地域との連携	保護者や地域社会との連携を深める具体的活動の推進	生徒会やボランティア委員を中心として、福祉施設を訪問してのボランティア活動や、地域の清掃、募金活動などに取り組むことができた。保護者と共に環境整備活動や朝の一声運動なども行った。多くの活動で、参加する生徒・保護者の人数が増え積極的な活動が見られたが、保護者の参加者は同じ顔ぶれに偏る傾向があった。	B	今後も地域社会との連携を深める交流の機会を多く企画し、生徒に広くよびかけ、参加できる生徒を増やしていきたい。また、保護者へ活動の案内が届いていない場合が少なからずあるため、メールやホームページも活用して各行事の周知を図り、広く参加者を募るよう改善していきたい。	地域活動も徐々に復活してきた。計画に積極的な地域社会との交流をお願いしたい。 学校から生徒及び保護者への連絡は、登録した携帯にメールで送信するのが確実である。

進路指導	教育目標に基づいた計画性のある指導の推進	単年度の目標・計画については概ね良好に実現できている。刻々と変化する社会情勢や入学してくる生徒の状況を踏まえつつ、高校３年間を見通した進路指導・キャリア教育を実践することが今後の課題である。	A	進路希望調査、学力分析をもとに生徒の実態の詳細把握に努めるとともに、学年部との連携を強化して生徒一人一人の進路希望の実現を図る。生徒に対しては、大学等模擬授業、企業見学等の体験活動を通して自己の将来像について具体的なビジョンを持たせる。	３年間を見通した進路指導のため、生徒のデータを蓄積し、全職員が助言・入力できるシステムを活用する方法がある。 体験活動等を通して自己の将来像について具体的なイメージを持たせ、自分で考え、自分で選択することのできる生徒が増えることを期待する。
	資料の活用や関係諸機関との連携	各教科の授業におけるタブレットの活用は進展しているが、進路学習の場面ではまだ不足しているように感じる。模試の振り返りやポートフォリオの蓄積など進路探究のツールとして、積極的に活用させたい。また、連携型移行４期となり、御所野学院中学校以外の出身者が過半数を占めるようになってきた。地域との連携のあり方を見直す時期に来ている。	B	タブレットについては現在校内での使用のみ可であるが、家庭への持ち帰りを検討していきたい。使用できる場面、時間帯を広げることで活用に幅が出るものと考える。また、生徒会、ボランティア委員会等の限られた生徒だけでなく、全校生徒が何らかの形で地域と関わる機会を設けたい。例：地元の企業見学…御所野西部臨空港工業団地、秋田新都市産業団地（湯本地区）	地域の人的資源を活用し、様々なキャリアの人や専門家やプロに接する機会を企画する方法がある。生徒が学校行事に参画することでより主体的な取り組みになることを期待する。
学年経営・学級経営	教育目標に基づいた計画性のある指導の推進	（１年部）年度当初の計画を核としながらも、個を大切にし柔軟に指導を行った。現状と指導計画との差を感じている。 （２年部）生徒が自らの進路に関する情報を得るよう指導の工夫をしてきた。面談を通してより生徒個々の進路目標が具体的になってきた。 （３年部）目標の達成に向け、ＨＲ活動やキャリア教育などを通じて、学年部職員が中心となって指導を行った。進路意識の高まりが早い時期から見られ、多くの生徒が志望を実現することができた。	A	（１年部）職員間の情報共有を基に生徒の現状把握に努め、より必要な事項を精査して指導計画に取り入れていきたい。 （２年部）学年内での情報を他の分掌と共有し、学校全体で取り組んでいきたい。どの生徒にも公平に指導し、進路目標達成に向け頑張っていきたい。 （３年部）生徒の進路志望が就職･専門学校･短大･四大（総合型・学校推薦・一般）と多岐に渡るため、担任（学年部）の負担が非常に大きい。その解消方法を今後、体系的に考えたい。	生徒一人一人の状況や進路希望等に応じた丁寧な指導が展開されていることが、身近であるが故に肌で感じることができた。 ３年担任は就職志願者と大学志望者まで長期間にわたる進路指導が求められ、業務も多岐にわたるため、負担が大きい。３年部には学年以外の教職員も配置する等の柔軟な援助が必要である。
	学校全体の活動と結びつけた学年・学級の活動の推進	（１年部）担任と家庭の結びつきを基に、学年・生徒指導・生徒相談・部活動等と情報共有を行い、個々の生徒に必要な指導を適宜行った。 （２年部）個を大切にするという意識で生徒と接し、情報を共有してきた。学習面でも授業や放課後等で生徒の状況に合わせて個別に指導をしてきた。 （３年部）進路志望を達成すると同時に、行事や生徒会活動、学外での活動を社会性や協調性を身に付けることを目標として指導を行った。	A	（１年部）生徒の多様性の広がりに対して、職員全体でカバーしていく必要を感じている。個のニーズに適切に応えられる体制を学年で整えていきたい。 （２年部）心身ともに成長を感じられた生徒が増えてきた一方、生活習慣の確立など課題を抱えている生徒がいる。チームとしてお互い声を掛け合って対応していきたい。 （３年部）学校生活を通して、多くの生徒が社会の構成員としての自覚が出てきたように思う。卒業後もこのことを忘れずに生活することを望む。	本校の教職員と生徒数を考えた時、学級担任制の他に、学年担任制のほうがより効果的な場合もある。 家庭において子供たちに自立を促すことも円滑な学年・学級経営に寄与できる。

特別活動	教育目標を踏まえた生徒の実態に即した指導の推進	新型コロナウイルス対策の行動制限緩和を受け、中学校と連携しつつ地域に根ざした学校行事等活動の計画と実施を図った。生徒評価、保護者評価共に改善したことから一定の成果が見受けられる。行事の過密さについての意見があることから、今後の行事の精選や運営の見直しが必要である。	B	学校全体で他分掌と連絡を取りつつ行事の精選を継続し、運営の見直しを図る。生徒に応じた活動への支援体制づくりの一層の充実を図る。	行事の精選及び縮減について、本校の改善案を基に設置者と協議する機会が必要である。 行事後に課題や改善点等について総括し、それを次年度の原案とすることで円滑な年間行事とすることができる。
	より良い人間関係を築こうとする主体的な態度の育成	他校との交流、国際的活動への貢献、学校窓口制度を利用した全国・国際大会での交流（囲碁）等を通じ、自己の能力の伸長への主体的取組が多く見られた。 新たな活動として生徒会執行部が「全国市立生徒会サミット」へ参加した。郷土や自己の学校生活を議論しながら市立高校として果たすべき役割を全国レベルの広い人間関係の中で意見を共有、明確化した。その後、執行部内で参加内容を共有した。	B	幅広く地域や機会を活用した活動（他校間交流、地域ボランティア活動、各種プロジェクトへの参加、学校窓口制度等）を継続し、生徒の主体的な態度の育成の一層の充実を図る。	行事や生徒会活動で社会性や協調性を身につけ社会の構成員としての自覚が出てきたと評価できた。多様化している社会の中で、コミュニケーション能力や社会との関係性を理解できる生徒に成長することは、すばらしく、頼もしい。
保健・衛生	教育目標に基づいた計画性のある指導の推進	学校保健年間計画に基づいた保健教育・保健行事を行った。中高合同学校保健委員会では、薬物乱用防止や性教育に関する取組、生徒保健委員会の活動状況等を報告し、生徒と家庭・学校で共通した健康課題の意識がもてるように努めた。	B	生徒自身が自分の健康を守る意識を高めることができるよう保健指導を心がけていきたい。早寝・早起き・朝ごはんを意識し、規則正しい生活を送ることができるように呼びかけていきたい。	自分と相手を守り、そして将来のため、様々な知識を得て経験する年頃ですが、親も意識や知識をアップデートし、様々な悩みを抱える子供と向き合いたいと考えています。学校が行っている授業や研修、調査の概要を情報提供をお願いしたい。
	生徒の悩み等に対する教育相談体制の充実	生徒が落ち着いて相談ができるように、保健室や相談室の環境を整備するとともに、関係職員と情報交換と共通理解を図り、早期発見・早期対応に努めた。また、ＨｙｐｅｒＱＵを実施し、把握した情報を支援に生かすことができるよう取り組んだ。人間関係等でストレスを抱える生徒が多く、心因性が疑われる不調を訴える生徒が多かった。	B	特に保健室来室の多い生徒に対しては、丁寧に話を聞き、背景や要因を把握していきたい。スクールカウンセラーとの相談希望者も多いため、面談時間を適切に調整していきたい。	生徒対象のストレスマネジメント研修や生徒主体のピアサポートなどについて、専門家の指導を受けながら実践する方法がある。中学校から継続すればメリットも大きくなると期待できる。
施設・設備	生徒の学習面、安全面等を考慮した整備の充実	点滅する第一体育館照明設備の修理、エアコン未整備であった理科室Ａへのエアコンの設置、積年の課題であった図書室の雨漏り修理等、学習環境の整備を進めることができた。 教室内は冷房が効いたが、理科室Ａのエアコンは効果が乏しく、また、廊下には冷房を施せないため多くの生徒が暑いと感じた。	B	今後も適宜修繕を進める。 エアコンの設定温度を下げても効果が少なかったため、扇風機等で室内の空気循環をするなどして冷房効果を高めたい。廊下については、冷風機を適宜使用し、適切な環境維持に努めたい。	熱中症対策、生徒及び職員の健康管理のため、エアコン等も含めた環境保全は重要であり、早めの対応が求められる。快適な学習環境になるようお願いしたい。 冷房効率を上げるために必要な機器等があれば、ＰＴＡ会員の理解を得て引き続き協力していきたい。